



医薬品の論文を読むための知識がこの1冊に

評者 守矢英和 湘南鎌倉総合病院 総合内科

「自分が研修医の頃に、この本に出会っていたのなら…」というのが、私が本書を読んで最初に思った率直な感想である。私が研修医の頃は、まだシステムティックレビューやメタアナリシスといった統計解析手法が始められたばかりで、医学統計や医学論文の読み方に関する書籍自体が少なかったことは確かだが。

そして月日が経ち、私も医師としての経験を少しは積み、クリニカルエクステションをもとに自分で臨床研究の実施計画書を準備するようになった。主要評価項目設定の意義やサンプルサイズの決定などについて、先輩医師から教えてもらったり、似たような論文を引っ張り出して見様見真似で作成したりしていた時の苦勞を思うと、どれだけ無駄な時間を費やしたことか、と愕然とする次第である。

推理小説を読むように合点がいく“ストーリー”展開

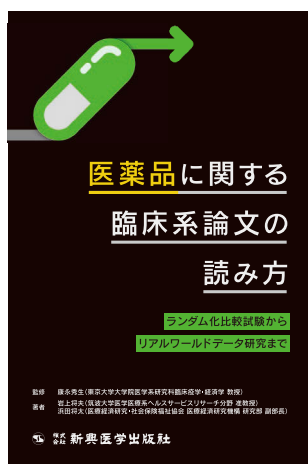
本書が読者にとって理解しやすいのは、『NEJM』や『BMJ』など一流雑誌に最近掲載された論文を取り扱い、原文を引用しつつ、その和訳を併記して解説がなされている点である。多くの書籍にありがちな統計に関する総論的な記述のみに終始せず、あたかもこの論文の著者自身が直々に解説したかのようなストーリー展開は、難しい解説書を読むのではなく“推理小説”を読むかのようにすんなりと合点がいくのである。

書籍の構成としては、医学論文を読むための基本事項が冒頭に解説されたあと、①ランダム化比較試験、②横断研究、③コホート研究、④症例対照研究、⑤システムティックレビューとメタアナリシスといった、われわれがよく医学論文を読む時に遭遇し、また実際自分で臨床研究を組む代表的な研究方法が題材として必要十分に盛り込まれている。また、やや文脈から離れた内容についてはコラムとして別途記載され、NTT (number needed to treat) や感度分析などが取り上げられており、要領よくまとめられている。

そのため、1冊200頁足らずの小冊子ではあるが読みごたえ十分であり、若手の医師のみならず中堅医師にとっても、医学論文や統計に関する知識を今一度整理するのにうってつけの1冊となっている。

著者の1人である岩上将夫先生とは、彼が公衆衛生学の道に進む前の若かりし頃、ベッドサイドで一緒に働かせていただく機会があり、その臨床的センスには一目置いていたが、本書を読ませていただいてプレゼンテーション能力のセンスにも驚いた次第である。ぜひ皆さんに一読を、いや複読を願いたい。

G



**医薬品に関する
臨床系論文の
読み方**
ランダム化比較試験から
リアルワールドデータ研究まで
康永秀生=監修
岩上将夫、浜田将太=著者

定価：3,630円(本体3,300円+税10%)
A5変判・184頁／新興医学出版社／2022
[ISBN978-4-88002-922-1]